

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	対象地域の治安状況を含む生活環境が改善する。
(2) 事業内容	本報告期間(2015 年 3 月～7 月 31 日)までに以下の活動を実施した。 <u>活動 1: コミュニティ・グループの自立発展的な活動</u> (1) コミュニティ活動の計画・実施・評価 対象 3 地区(フロール・デル・カンポ、アレマン、ラ・ホヤ)において形成されたコミュニティ・グループが主体的に地域奉仕活動やレクリエーション、文化活動などのコミュニティ活動の計画・実施・評価を行っており、本事業スタッフは各グループの活動計画策定の会合や活動実施に際して、サポート・助言を行っている。フロール・デル・カンポで植樹活動、壁画作成、リプロダクティブヘルス推進イベント、アレマンで平和と健康フェア、幼稚園訪問、映画上映会、ラ・ホヤでビンゴ大会、植樹活動が実施され、コミュニティ・グループメンバー合計約 50 名の他、地域住民が各回平均して 97 人参加した。活動の内容に応じて、コミュニティ・グループが、行政や民間企業にペンキや苗木などの物品寄贈を申請したり、また地域警察や保健所などのサービスといった地域のリソースを活かしたりして、より自立発展的な活動が可能となってきた。 (2) コミュニティ・グループフォローアップ研修 対象 3 地区のコミュニティ・グループメンバーに対して、研修を 2 回実施し、1 回目 52 人、2 回目 51 人の参加があった。研修テーマはホンジュラス共和国の「国家ビジョン」と「国家計画」とし、普段意識することの少ない国家政策について学ぶとともに、各地区のコミュニティ・グループが、「国家」を「コミュニティ」に置き換えて、それぞれビジョンや計画についても考える場となった。3 地区のコミュニティ・グループが合同で研修を行うことで、地区間のメンバーの交流やそれぞれのコミュニティ活動への取り組みを共有することができた。 <u>活動 2: 対象地区の青少年の育成</u> (1) ピアエデュケーション活動の計画・実施 対象 3 地区にある学校(3 校)で各 2 回、青少年リーダーによるピアエデュケーション活動を実施し、1 回目は計 298 名、2 回目は計 243 名の生徒が受講した。テーマは青少年リーダーと教員たちの関心が高かった、自尊心、価値観、暴力、薬物、リプロダクティブヘルスを選択し全 5 回にわたり実施することとした。7 月までにフロール・デル・カンポとアレマンで自尊心と暴力いじめについて、ラ・ホヤでは価値観と自尊心について実施した。青少年リーダーたちが自主的に集まり研修の進め方や教材等の準備を行っており、本事業スタッフは彼らの活動をモニタリングし、必要な際に助言している。 (2) 校内クラブ活動の実施 対象 3 地区にある学校(3 校)で校内クラブ活動の計画を立て、7 月にモンテレイ校で科学講座を実施した。その他、国立自治大学心理学部の協力で同学部生による生徒に対する心理カウンセリング等も実施される予定である。 また、追加の活動として 3 地区の学校(3 校)の教師に対して研修を実施した(各校 1 回)。内容はストレスへの対処方法とモチベーションの上げ方について実施した。 <u>活動 3: 青少年育成マニュアルおよび住みやすいコミュニティ活動マニュアルの作成、関係機関への紹介</u> 青少年の育成およびリーダーの育成マニュアルおよび住みやすいコミュニティ活動マニュアルを作成するにあたり、本事業 3 年にわたる実施過程で培われたノウハウを文書化する

	準備を進めている。
(3)達成された効果	事業目標：対象地域においてコミュニティ・グループと青少年主体による「住みやすいコミュニティ」づくりを目指した活動の実施体制が確立される 【指標 1】コミュニティ・グループと関係機関との協力関係が構築される。 ⇒コミュニティ・グループが地域警察や保健所、テグシガルパ市役所青少年課や NGO などの関係機関と協力関係を構築し、コミュニティ活動の実施を通じて連携できている。事業後半にコミュニティ・グループと関係機関に対して聞き取り調査を実施する。 【指標 2】地域の青少年によるコミュニティ活動への参加が増える。 ⇒対象 3 地区においてコミュニティ活動が認識されてきており、地域の青少年の参加が増加してきている。事業後半にアンケート調査を実施する。 【指標 3】対象住民の中で「住みやすいコミュニティ活動」の重要性を認識・理解する人が増える。 ⇒コミュニティ活動実施時に、対象住民にアンケートを実施している。事業後半に集計し、認識・理解度を測る。 【指標 4】関係機関から本事業が「住みやすいコミュニティ」づくりのモデルとして認識される。 ⇒事業後半に関係機関にアンケートを実施し、本事業が「住みやすいコミュニティ」づくりのモデルとしての認識度を測る。 成果 1:コミュニティ・グループが自立発展的に活動を実施する 【指標 1-1】コミュニティ・グループが主体的に(事業側のサポートなしに)活動を計画・実施している。 ⇒対象 3 地区のコミュニティ・グループ全てが主体的に活動を計画・実施している。 【指標 1-2】コミュニティ・グループメンバーの 9 割以上が、活動モニタリングに参加する ⇒コミュニティ・グループの活動モニタリング出席率は平均 67%であった。学業の都合などで、モニタリング会合に出席できなかった生徒が多かったことから、事業後半はミーティングの時間を工夫するなどして参加を促す。 【指標 1-3】コミュニティ・グループメンバーの 7 割以上が、研修内容に関する知識・能力が向上したと認識する ⇒事業後半にテストを実施する。 成果 2:地域の青少年が育成される 【指標 2-1】青少年育成活動が青少年リーダーによって計画され、その 8 割が実施される ⇒ピアエデュケーション活動は全 5 回が計画され、テーマは自尊心、価値観、暴力、薬物に決定した。そのうち 2 回が計画通り実施された。

	【指標 2-2】ピアエデュケーション対象者の 8 割以上が、内容に関する知識・能力が向上したと認識する ⇒事前テストを 300 名に実施した。ピアエデュケーション終了時にもテストを実施し、内容に関する知識・能力の向上を測る。 【指標 2-3】学校内クラブ活動が実施される ⇒校内クラブ活動が青少年リーダーや教職員により計画され、7 月にモンテレイ校において第 1 回目の科学講座が実施された。(テーマについては、各校の生徒の関心の強いものを選択した。) 成果 3: 青少年育成マニュアルならびに「住みやすいコミュニティ」づくりの活動のガイドラインが作成され、地域の関係者の理解が深まる 【指標 3-1】青少年及び青少年リーダー育成マニュアルが作成される ⇒7 月より作成を開始した。 【指標 3-2】「住みやすいコミュニティ活動」のガイドラインが作成される ⇒事業後半に作成する。 【指標 3-3】関係機関から青少年育成・コミュニティ活動の方法が理解される ⇒1 月に青少年育成マニュアル、住みやすいコミュニティ活動マニュアルを関係機関に紹介するための会合を実施し、内容に関する理解度をアンケートにより測定する。
(4) 今後の見通し	<u>活動 1: コミュニティ・グループの自立発展的な活動</u> 対象 3 地区のコミュニティ・グループが自主的にほぼ毎月コミュニティ活動を実施し、引き続き本事業スタッフがモニタリングと必要に応じて助言を行う。なお、フロール・デル・カンポ地区とアレマン地区では対象校において日・中米交流年にちなみ日本文化を紹介するイベントを計画しており、9 月に実施予定である。 <u>活動 2: 対象地区青少年の育成</u> 青少年リーダーによるピアエデュケーション活動、校内クラブ活動を継続的に実施する。両活動とも事業後半に各校で 8～10 月にかけて 3 回ずつ実施する予定である。活動時には、参加者に活動に対するアンケートを実施し、青少年リーダー、教師、本事業スタッフが共同でモニタリング・評価を行うことで、その成果・課題を踏まえて、活動を改善していく体制を構築していく。 <u>活動 3: 青少年育成マニュアルおよび住みやすいコミュニティ活動マニュアルの作成、関係機関への紹介</u> 3 年間の事業実施を通じて蓄積された青少年および青少年リーダー育成研修の手法・教材などをまとめたマニュアルを作成する。青少年研修、青少年リーダーの選出、青少年リーダー研修、コミュニティ・グループへの参加という一連のプロセスを文書化する。同マニュアルは関係者や関係機関、教育省、市役所、他地域の地域警察へ紹介し、その活用を積極的に促す。